

イギリスのソーシャルワークにおけるレイシズム概念の検討 —反レイシズム・ソーシャルワーク生成の歴史的過程に焦点をあてて—

旭川大学 宮崎 理 (8539)

キーワード：レイシズム、ソーシャルワーク、イギリス

1. 研究目的

近年、レイシズム (Racism) の克服は、日本社会が直面する重要な課題のひとつとして認識されるようになってきた。ゼロ年代後半以降、ヘイトスピーチに対する市民たちによる路上での抗議運動を契機に、法曹関係者・ジャーナリスト・教員等によってその克服のための努力が払われてきた。また、法務省人権擁護局は、2015年1月よりヘイトスピーチに焦点を当てた啓発活動を開始した。社会学・法学・心理学等では、日本におけるレイシズムについての研究蓄積が増えつつある。しかし、社会福祉学では、レイシズムについての言及自体あまり見られないのが現状である。

日本におけるレイシズムの現状を明らかにしその克服を目指すために、社会福祉学はどのような貢献ができるのであろうか。その方向性を示すためには、そもそも「レイシズム」という概念がいかなるものであるのかを明確にする必要がある。そこで本研究では、反レイシズム・ソーシャルワーク (Anti-Racism Social Work) が先進的に取り組まれてきたイギリスに注目し、そこで用いられてきたレイシズム概念の特徴を明らかにすることを目的とする。

2. 研究の視点および方法

本研究は、文献研究である。Dominelli, L. (1988) や Lavalette, M. and Penketh, L. Eds. (2014) などの反レイシズム・ソーシャルワークに関する諸文献を参照する。特に、反レイシズム・ソーシャルワークが開始された歴史的過程に焦点をあて、レイシズム概念がいかなるものとして構築されてきたのかを検討する。

反レイシズム・ソーシャルワークとは、1970年代から1980年代初頭にかけて、イギリスのソーシャルワーカーたちがストリートにおける反レイシズムの社会運動に参加したことを契機に開始されたものである。

本研究でイギリスの反レイシズム・ソーシャルワークに注目するのは、その理論が普遍性を持つものとしてレイシズムの克服を目指す研究にとって有用であると考えからである。反レイシズム・ソーシャルワークが、近年では、イスラモフォビア (Islamophobia = イスラム嫌悪) などのアクチュアルな問題へと関心を広げてきたことや、その実践と理論を学ぶことがソーシャルワーク教育のなかに明確に位置づけられてきたことなどが、その

ことを示す例である。

3. 倫理的配慮

本研究は、「日本社会福祉学会研究倫理指針」を遵守したものである。

4. 研究結果

イギリスの反レイシズム・ソーシャルワークにおいて、レイシズムとは、資本主義の発展と拡大という特定の歴史的文脈の中で生じた「制度 (institution)」であり、イギリスの植民地支配の歴史と社会的、経済的、政治的、イデオロギー的な織物 (fabric) に織り込まれたものとして捉えられてきた。これは、レイシズムは、明文化された法制度としてだけではなく日常生活のあらゆる場面で人びとの振る舞いとしてあらわれたり、構造的な排除や不平等して見られたりするものであるという捉え方である。ここでいう「制度 (institution)」とは、「規範のパターン、すなわち、社会が個人の行動に押し付けるプログラム」(Berger =1979) と定義付けられる社会学的な概念である。

反レイシズム・ソーシャルワークにおけるレイシズム概念のもう一つの特徴は、レイシズムが「われわれのもの」として明確に認識されてきたということである。レイシズムは「レイシスト」といわれるような「特別な」個人や集団によるあからさまなものだけではなく、ソーシャルワーカー自身をも含んだイギリス社会全体のものとして捉えられてきたのである。

5. 考察

イギリスの反レイシズム・ソーシャルワークで用いられてきたレイシズム概念を参考にすることは、日本においてレイシズムの克服を目指す研究を行ううえで有用であると考えられる。それは、ヘイトスピーチのような「わかりやすいレイシズム」だけではなく、構造的な排除や不平等に対してより積極的に焦点をあてることが可能となるからである。また、「われわれのもの」として自覚的に捉えることは、社会福祉の制度や実践のなかに織り込まれたレイシズムを顕在化し、その変革の方法を提示することにつながるからである。

[文献]

Berger, P.L. and Berger, B. (1972) “Sociology: A biographical approach”, New York: Basic Books. (=1979、安江孝司ほか訳『バーガー社会学』学研。)

Dominelli, L. (1988) “Anti-racist social work: A Challenge for white practitioners and educators”, London: Palgrave Macmillan.

Lavalette, M. and Penketh, L. Eds. (2014) “Race, racism and social work”, London: Policy Press.